名道研だより 第63号

夢に向かって！

発行
令和5年2月17日（金）
名古屋道徳教育研究会 広報部
Meidouken.com

「道徳教育の充実を」

令和４年度　市道研顧問校長　森孝東小学校　服部　豊

2022 年のサッカーワールドカップ。感動したのは日本チームの快進撃だけではありません。「きちんと整理整頓された、選手のロッカールーム」「負けた後、グランドに深々と礼をした森安監督」「勝っても負けてもスタンドの清掃をした日本のサポーター」…。世界中から注目され、称賛されたこれらの姿は、「自律」「節度・節制」「感謝」「誠実」「礼儀」「公共の精神」等、選手やサポーターたちの中で培われた「道徳性」が表れたものです。

私たち教師は、教育活動全体で行う「道徳教育」として、ほぼすべての教育活動の中で子どもたちの「道徳性」を養っています。清掃を美徳ととらえて毎日の指導を続け、遠足に行けば「来たときよりも美しく」とゴミ拾いを促します。わが国のどこの学校でも行われている日々の教育活動（道徳教育）が、子どもたちの心（道徳性）を育み、大人になってからも体現されるような高い道徳性につながったのではないでしょうか。私たちは先輩教師がこれまで行ってきた道徳教育を学び、受け継ぎ、これからの時代に合わせて道徳教育を充実させていかなくてはなりません。

道徳教育の要は道徳科の授業です。道徳科は、学級での話合いを通して、教師と子どもたちが共に生き方について考える時間です。他教科と違って、得意も苦手もありません。工夫することで、教師にとっても子どもにとっても楽しい時間になります。道徳科の授業が、楽しく、そして、人として成長できる時間であることを願っています。

令和4年度 名古屋市道徳研究会 研究発表会　１月24日（火）天白文化小劇場にて

研究内容は各校に配布した『道徳 会報 No.18』に詳しく紹介しています。
会報は名道研 HP（上のQRコード）でもご覧いただけます。

指導講評
名古屋市教育委員会指導室　中村 知宏 指導主事

<授業づくり研究部会について>

学級の子どもたちの困り感をしっかり分析された上で、ICT を活用した新しい手立てや、有効性が認められている既存の手立てを使う実践を紹介していただきました。困り感をもっている子どもたちへの支援はもちろんですが、他人事として学習に参加している子どもや、教師が求めている答えを先回りして発言する子どもたちには、どのようにアプローチしていくといいのか、ということも提案していただきたいと思います。

<テーマ研究部会について>

活発な議論が広がる授業展開の工夫を講じることで、一人ひとりが考えを深めて、自分らしい考えをもつことができる。そんな実践例をご紹介していただきました。

今後の方向性ということでお示しいただいたように、授業が終わっても「もっと考え続けたいな」とか、今日の授業で学んだことが「あ、こんな場面でいきた」と、子どもたちが思えるような授業。先生方の立場から言うならば「こんな場面では、こんな子に育ってほしい」ので、授業では「こんなねらいをもって取り組もう」といった部分の追究をさらに進めていただきたいと思いました。

両部会とも、今、学校現場で求められている個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実という点をしっかり踏まえられておりました。

考え議論する道徳のさらなる進化を目指した、非常に汎用性の高い実践研究であることを実感いたしました。

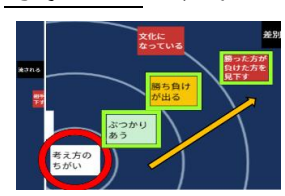
安心 授業づくり研究部会
誰もが安心して考えることができる道徳科の授業～実態に応じた個別最適な支援を通して～

「話の内容が分からない」「恥ずかしくて発言できない」といった、子どもたちの「困り感」に対する個別支援の方法について発表しました。

対象学年	小学2年生	小学5年生	小学6年生
教材名	「ぐみの木と小鳥」	「お客さま」	「手品師」
ねらい	B 親切、思いやり	C 規則の尊重	A 正直、誠実
安心して考えることができる支援 ❶教材を理解する際の支援 ❷考えを共有する際の支援 ❸考えを表現する際の支援	❷ポジショニングシート 	❶ 物語のスライド ❷ 表情絵と共有画面 ❸ イラストカード	❸キャラクターの活用 はてにゃん
会報ページ	10ページ～	4ページ～	15ページ～

「はてにゃん」を使うと子どもが発表しやすいよ！

活発な議論を広げるための様々な工夫について発表しました。会報には下記の3つの授業の流れを詳しく紹介しています。

対象学年	小学3年生	小学6年生	中学3年生
教材名	「水やり係」	「私には夢がある」	「カーテンの向こう」
ねらい	B 相互理解、寛容	C 公正、公平、社会正義	D よりよく生きる喜び
活発な議論を生み出す工夫	・登場人物の言動を選択式にする ・「立場カード」の活用 	・話し合う視点を与える ・思考ツールの活用 	・中心発問による意見交流 T　ヤコブがなぜこのような行動をしていたのだろうか。 ・問い返し発問による意見交流 T　ヤコブも病気で大変なのになぜできるのか。それでもやり続けたのはなぜか。
会報ページ	26ページ～	22ページ～	24ページ～